

しっぽ

姫路南教室 小五 伊東侑真

ぼくは、しっぽといえはトカゲのしっぽが、まず頭にうかびます。トカゲは、敵から身を守るために、自らしっぽを切ることが出来ます。しかも、切れたしっぽは、日にちがたてば、もとにもどります。とても不思議で興味深いので、トカゲのしっぽについて調べたことがあります。トカゲのしっぽの中間には、自切面とよばれる弱い面があり、尾の筋肉を収縮させることで、この部分が切断されるそうです。思わずうなってしまうほど、よくできた仕組みです。

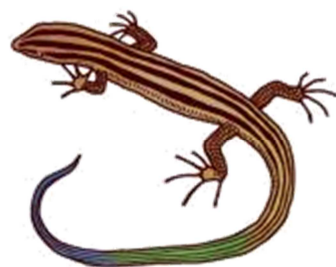
ぼくたち人間にも、しっぽがあったそうです。尾てい骨がそれを証明しているそうです。しっぽがあれば便利だと思えます。冬の寒い日には、マフラーになります。雨の日には、しっぽでかさを持てば、自転車も片手運転にはなりません。「勉強しなさい。」と、お母さんにしっぽをつかまえられた時には、トカゲのように切ることができたら、もう最高です。

人間のしっぽは、本当に不要になったのか、ぼくには疑問が残ります。

課題(11月)

『しっぽ』

リスやキツネ・カンガルーの動きを見てみましょう。とんだりはねたりするときに、しっぽを上手につかってバランスをとっています。サルは、えだにぶら下がったり、木の実をとったりするのに、しっぽをつかいます。牛、馬、ライオンのしっぽは、虫をおいはらうために、やくに立ちます。では、犬やぶたはどうでしょう。人間に飼われていると、しっぽはいらないのでしょいか。人間にしっぽがないことも、あわせて考えてみてください。



添削員からのメッセージ

音楽の演奏会でたとえると、思わず「ブラボー！」と立ち叫びたくなるような作文でした。大人の私が、伊東さんの作文、一枚ではありますが、引き込まれ、また楽しませていただきました。「作文」が「作品」となっていると実感しました。

伊東さんの作文のみ力は、具体例だけでなく、調べてみたり、それから感じたことをたくさん文章表現で書き進めるところです。読み手も楽しんだり、疑問を持ったり、同じ空間を共有できることです。(亀田)

祖父と魚つり

東浦和教室 小五 新井 雅人

ぼくは祖父が大好きだ。なぜなら、ぼくは魚つりが大好きで、祖父は魚つりが名人級だからだ。色んな魚を簡単につり上げる。例えば、鮎・ニジマスなどは、頬ばんにつり上げてしまう。

ぼくは祖父に、魚つりに連れて行ってもらえるのが一番うれしい。魚つりの面白いところは、魚のいるポイントをねらってエサの付いた針を投げ入れるところだ。そして待つ。ひたすら待つ。魚がぼくのエサに食いつくまで。これは、ぼくと魚の勝負だ。魚の動きに注意して、魚がしっかり針にかかったところを引き上げる。水面に魚が上がって、ぼくのさおに魚の重みはずっしりかかる時は最高だ。

もしも、祖父母が田舎に住んでいなければ、ぼくはこの魚つりの楽しさを知ること無かっただろうし、自然の中で遊ぶ経験も出来なかっただろう。だから、ぼくは祖父にとっても感謝しているし、大好きなのだ。いつかぼくが大人になったら祖父を連れて魚つりに行く、これがぼくの夢だ。

課題(9月)

『夏休みをふりかえって』

夏休みに入ったとたん、ぐんぐん暑さがまし、温度計はうなぎのぼりとなりました。みなさんは、どんな夏休みをすごしましたか。りよ行に行った人、いなかへ行った人、プールへ通った人、本をたくさん読んだ人など、楽しい時間をたくさんすごしたことでしよう。ぎやくに、反省していることもあつたはずです。長いお休みの日々をふり返ってみましょう。

添削員からのメッセージ

小気味よい書きっぷりです。読んでいて、その時の場面が目の前に浮かんできます。常体文を上手に使いこなしていて見事でした。やや漢字などの書きまちが多いのが気になるところです。また、最後の文に見られるように、やや同じ言葉を重ねてしまうくせがあるので注意しましょう。同じ意味を表す言葉をいくつかおぼえて多様に表せる努力ができること、さらに完成度が高まりますよ。

(山本)

